

フェロモントラップへのトマトキバガの誘殺が4月上旬から認められています。

トマト圃場等での発生に注意しましょう。

トマトキバガは、令和3年に熊本県で初めて発生が確認された侵入害虫で、主な寄主植物であるナス科（トマト等）を食害します。

茨城県では、令和4年から県内4地点にフェロモントラップを設置して調査を行ったところ、令和5年10月に県内で初めてトマトキバガ成虫の誘殺を認めました(令和5年10月24日発表 病害虫発生予察特殊報 第1号 参照)。なお、現在のところ、県内においては農作物での発生および被害は認められていません。

3月中旬からのフェロモントラップ調査による初発は、令和5年では10月中旬、令和6年では9月上旬、本年では4月上旬に認められました(図)。

今後、圃場をよく観察し、トマトキバガの発生や被害が疑われた場合は、最寄りの農業改良普及センター、病害虫防除所に連絡してください。

[トマトでの被害の特徴]

- ① 茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の被害は、ハモグリバエ類の食害痕と類似するが、ハモグリバエ類は線状に痕を残すのに対し、トマトキバガは面的に食害する。トマトキバガの食害部分は表面のみを残した薄皮の袋状になり、葉の裏面からでも透けて見える(写真1)。
- ② 果実では幼虫が食入し内部を加害し、数mm程度の穿孔痕が生じるとともに食害部分が腐敗する(写真2)。

※ 防除対策については、令和6年10月18日発表 病害虫速報No.9を参照してください。

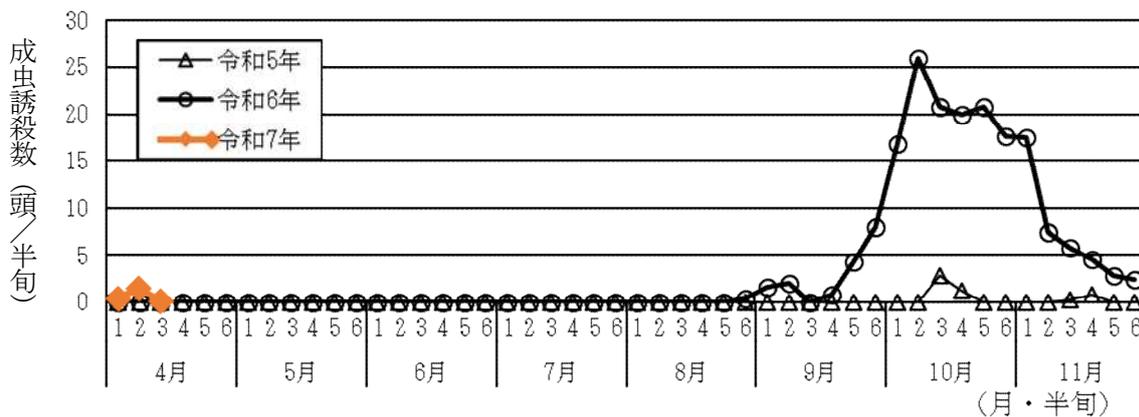


図 フェロモントラップへのトマトキバガ成虫の誘殺数 (県内4地点合計)



写真1 トマトキバガ幼虫による被害葉



写真2 トマトキバガ幼虫によるトマト果実の食害

(写真1、2は、農林水産省植物防疫所原図)